

第5章 社会全般

出会い系サイト

恋愛・結婚の形にも影響？ お手軽“出会い”の普及
トラブルや犯罪は利用拡大に比例し今後も増大必至

かつては、いろいろな雑誌に文通欄という仲間募集のようなページがあったものだ。編集部が転送したり、直接住所を掲載したりとその形はさまざまだったが、文通欄殺人事件などといった報道は記憶にないし、ストーカーなどという言葉も存在しなかった。文通形式での手紙のやりとりでは、住所を明確にしなければ手紙は届かない。都会の一人暮らしならばともかく、家族と同居している人や、郵便局員が家族構成を把握しているような地方では偽名で文通するのは難しい。

現代の出会い系サイトでは、住所と名前をオープンにしたかつての文通とは異なり、メールアドレスとハンドル名でやりとりする。この匿名性ゆえか、出会い系サイトがらみの犯罪が多発しているとして、注目を浴びている。

“出会い系”序章としての
パソコン通信恋愛時代

インターネットが普及するまでのおよそ10年間、パソコン通信の時代があった。掲示板ありフォーラムありで、現在のインターネットに近い形態の通信メディアだ。このパソコン通信にも“出会い系”の掲示板は存在したし、フォーラムのオフラインミーティングでは、女性の争奪戦が繰り広げられた。

しかし、当時はパソコンの価格は高く設定も難しく、パソコン通信をする人は何十万もの大金をパソコンにかけるちょっと変わった人たち、つまり少数派だった。まして女性となるとさらに少数で、男女比は極端にアンバランスだった。規模から言っても、また男女比から言っても、パソコン通信での恋愛はごく稀なものであったと言える。

だが、パソコンの低価格化と設定の簡易化でパソコン通信人口が増えるに伴い、この傾向は徐々に変化していく。とくに

インターネットへの過渡期には、パソコン通信参加者数は各社合わせて1000万人に手が届くほどになり、女性参加者も増え、チャットやフォーラムで出会っての不倫、あるいは恋愛・結婚は（パソコン通信参加者にとっては）珍しいものではなくなくなっていった。それは今振り返れば、巨大なインターネットの“出会い系”への序章のようなものだった。

常時接続、ケータイで大衆化
“出会い系”としての条件整う

Windows95発売以来、インターネットへの接続が簡単になり、パソコン通信各社はインターネットサービスプロバイダー（ISP）に衣替えしていく。パソコン通信の“オタク”イメージとは異なり、インターネットという言葉には、21世紀を感じさせる魅力があった。

ISP各社はアクセスポイントを増やし、地方でも市内料金でアクセスできるようになった。そして、ADSLをはじめとしたブロードバンドの普及、低価格による常時接続環境が整ったことで、インターネットはごく一部の限られた人たちのものから一般大衆のものとなった。

さらに拍車をかけたのが、iモードをはじめとした携帯電話でのインターネット接続環境である。いくらパソコンの設定が簡単になったとはいえ、お気軽とはいえないだろうし、一通りそろえると10万円は超してしまう。その点、携帯電話は普及率の点からも手軽さからの点からもハードルが低い。親指でダイヤルを押すだけで接続可能である。

ここに、パソコン通信時代、インターネット普及時代の極端な男女のアンバランスは解消された。男女の出会い系メディアとして、インターネットは条件が整ったのである。

“生身の現実”を伴わない出会い

インターネットが出現する以前、男女の出会いには、まず現実の世界で顔を合わせる必要があった。その出会いの場は、多くの場合、それぞれの生活圏の中であつたので、互いの身元を隠すのは難しくあつた。旅先などの例外を除き、生身の自分と、その自分を取り巻く世間や社会といったものを抜きには、出会いも別れもありえなかったと言っている。それゆえに、男女が出会うのはそう容易なことではなかったし、別れるには大変なエネルギーを必要とした。まして結婚外の男女関係である浮気や不倫は、現実問題として大きなリスクを伴うものであつた。インターネットは、この男女の出会いと別れの様相を大きく変えた。

出会い系メディアでの出会いは、連絡先はメールアドレスだけでいい。本名も住所も勤め先も明かす必要はない。自分ではない架空の人物に成りすまそうと思えば、いくらでもできる。別れるのも簡単で、メールアドレスを変えるだけで、今までのつきあいを全て清算できてしまう。ちなみにメールアドレスは簡単に複数所有でき、捨てるのも容易だ。

出会いと別れがごく簡単なものになったとき、男女関係の実相はどう変わるのか。これまでの恋愛や結婚のあり方に、どんな影響を及ぼすのか。まだ何か明確なことを言うには時期尚早かもしれないが、インターネットがこれまでの男女関係を大きく変えつつあること、それも希薄な方向に変えつつあるということは否定できない。

テレクラ、Q2との差異

男性が繁華街にあるテレクラ店に入るには、ある種の勇気が要る。風俗店に入るのに近い、後ろめたい感覚がつきまと

う。そこに電話をかける女性の方も、あの毒々しいテレクラのチラシや、低俗な雑誌広告の番号へダイヤルするのは、やはり勇気が要るだろう。テレクラやQ2などに対する一般の認識は“ちょっと後ろめたい風俗”であり、そのいかがわしさはスリルと同時にある種の抑制効果を持っていたに違いない。

これに対し、出会い系サイトの場合、“出会い”というきれいな言葉が前面に出る。この言葉にはさまざまなプラスの意味が含まれており、売春を援助交際と言い換えるのと同様、実態をあやふやにカモフラージュできてしまう。自分は“出会い”を求めているのであって、浮気相手やセックスフレンドを求めるのではない、というわけだ。くわえて、インターネットというメディア自体も、ちょっとインテリジェンスを感じさせる。テレクラやQ2ですてきな人と巡り会えと考える人はないだろうが、“出会い系サイト”にはその期待をもたせてしまうニュアンスがある。

“出会い系”と犯罪 7割は未成年売買春がらみ

簡単に使うことができ、使用人口も増えればトラブルが起こるのは当たり前の話である。昭和40年代、車の普及とともに交通事故が増大した。しかし交通戦争などといわれたのも今は昔のことで、

交通事故が話題になるのは、年末のニュースぐらいになってしまった。悲惨な実態は変わらないのにもかかわらず、だ。

インターネットも垣根が低くなるとともに、犯罪発生件数が増えるのは当然のこと。事件は人が集まるところで起こるのである。

2001年、「出会い系サイト」がらみで検挙された事件は888件で、2000年の8.5倍になった。殺人、強盗、誘拐などの重要犯罪は、前年（15件）の4.8倍にあたる73件を数える。摘発が多かったのは児童買春・児童ポルノ法違反、青少年保護条例違反で、この2つを合わせると598件にのぼる（資料3-5-1）。出会い系サイトの事件というと、センセーショナルに報道され、凶悪事件のイメージがつきまとうが、実のところは女子高生の売買春がらみが7割近いのが現状である。もちろん女子高生・未成年の売買春も立派な犯罪であるが、出会い系サイトという目新しいものが絡んでいなければ、これほど大きく取り上げられるのかという疑問も感じられる。

警察庁の研究会が2001年9月～10月に行ったアンケート調査によると、中学生女子の7.1%、中学生男子の2%、高校生女子の22%、高校生男子の18.4%が出会い系サイトを利用した経験をもつ。利用経験のある高校生女子の約43%、高校生男子の28%は、知り合った相手と実際に面会をした経験があるとい

う **Jump02**。出会い系サイト利用者という男性をメインに想像しがちだが、中高生においては男女比が逆転しているのが興味深い。

e-Japan重点計画で各学級にパソコンが普及すれば、この数字は増えるだろうと予想される。あまり考えたくないことだが、出会い系サイトを利用する年齢層が下がり、中学生や小学生へと拡大していくことも予想される。

繰り返しになるが、インターネット利用者の増加と比例して、出会い系の事件やトラブルは今後増えることが予想される。出会い系サイトには危険が潜んでいるとの認識が広がったとしても、事件は減ることはないだろう。交通事故の危険性を認知しながら、交通事故がいつかに減らないのと同じ理由である。事故が怖いから乗り物には乗らない、トリハロメタンが怖いから水道の水は飲めないと言ってられないように、近い将来、好むと好まざるに関わらず、誰もがインターネットに接続せざるをえない状況になるだろう。

出会い系サイトがらみの事件やトラブルがマスコミで取りざたされているうちは、対岸の火事として傍観もできる。しかし、報道が下火になったときに、出会い系の負の部分、私たちの生活を浸食し、日常の風景になってしまっているのかも知れない。

(恩田ひさとし フリーライター)

資料3-5-1 「出会い系サイト」に関係した事件の検挙数

(件)

	2001年	2000年	増減
重要犯罪	73	15	58
・殺人	6	1	5
・強盗	10	2	8
・強姦	44	8	36
・略取誘拐	3	1	2
・強制わいせつ	10	3	7
恐喝	34	4	30
脅迫	16	2	14
暴行	3	1	2
窃盗	23	0	23
詐欺	26	1	25
児童買春・児童ポルノ法違反	387	41	346
青少年保護等条例違反	221	20	201
その他	105	20	85
合計	888	104	784
(うち携帯電話利用)	714	59	655

出所 警察庁「インターネット上の少年に有害なコンテンツ対策研究報告書」 **Jump01**

Jump01 www.npa.go.jp/safetylife/syonen4/houkokusho.pdf#p8/

Jump02 警察庁「青少年とインターネット等に関する調査～生徒調査」
www.npa.go.jp/safetylife/syonen4/top_page.htm



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp